

国立ウィーン音楽大学

ウィーン ユンゲ オーケストラ JUNGES ORCHESTER WIEN



黒部市公演

とき

'97/9月25日(木)

開場/18:00 開演/19:00

ところ

黒部市国際文化センター コラーレ(大ホール)

主催：財団法人 黒部市国際文化センター

協賛：チューリップテレビ、エフエムとやま

後援：黒部市、黒部市教育委員会

料金：S席・指定 3,500円

A席・自由 一般3,000円 学生1,500円

<予定される曲目>

出演者の都合により曲目が変更になる場合があります。

L・V・ベートーベン

ピアノ協奏曲第2番

ヘルヴィック ライター

「水を」—原 民喜 原爆詩集「水をください」より—

フランツ シューベルト

交響曲第5番変ロ長調

ヨハン シュトラウス

「南国のバラ」

企画・制作/(財)日本青年館・後援/駐日オーストリア大使館

国立ウィーン音楽大学

1812年に音楽家や有志がウィーン楽友協会を設立。その目的は①コンサートの開催②コンセルヴァトリウム（音楽学校）の設置③音楽関係と音楽家の資料や記録の収集と保管にあった。

現在の楽友会大ホールは、ウィーン・カルナの左の土地を、フランツ・ヨーゼフ皇帝が楽友協会にプレゼント（1863年）し、建設と運営を楽友会がおこなったもので今日に至っている。世界的に有名な、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団は、この楽友協会が1842年に設立したものである。

1817年、この楽友協会は、同附属音楽院を設立。その後、規模が膨れ上がり、運営を国に移管、1970年より現在の名称になる。したがって創立180年ということになる。



<指揮> ヘルヴィック ライター

1941年ニーダーオーストリア州生まれ。国立ウィーン音楽大学指揮学教授。ウィーン少年合唱団出身。ウィーン音楽大学およびウィーン大学卒業。音楽教科書を執筆。数多くの音楽家養成コースの講師、ヨーロッパの合唱コンクールの審査員を務める。オーストリア国営放送の音楽部門に協力。1982年ウィーン音楽大学合唱団、1987年ウィーン ユンゲ オーケストラを結成。



<ピアノソロ> エドワード クトロヴァッツ

1963年生まれ。マッタースブルク音楽学校にてピアノをヴァレリア ボッシュ教授に、アイゼンシュタットのハイドンコンセルパトリウムにて、ピアノをウヴェ ヴォルフ教授に師事。1981年国立ウィーン音楽大学へ進み、ピアノをレナーテ クラマー、プライセン ハマー教授に、合唱指導をヘルヴィック ライター教授に、打楽器をヴァルター フィーグル教授に師事。1986年国家教員試験（ピアノと打楽器部門）に合格。同年イタリアのストレサで行われた国際音楽コンクールで兄のヨハネスとピアノ連弾の部で金賞を受賞。世界最高峰のピアニストとして評価される。現在国立ウィーン音楽大学教授。

オーケストラ紹介

「ウィーン ユンゲ オーケストラ」(JOW)は、1987年ヘルヴィック ライターによって創設された。以来、演奏活動は、オーケストラ国内だけでなくイタリア、スイス、ドイツ、フランスなどに広がっており、ウィーンで繰り広げられるコンサート界の一翼をになっている。

それは、次のような理由によるものだ。

1. 国立ウィーン音楽大学に在籍する、あるいは卒業した優秀な学生や音楽家たちが、オーケストラ経験を学びまた、様々な指揮者のもとで演奏してみたいと意欲する集団だからだ。
2. JOWのコンサートプログラムのほとんどは、作品が少なくとも初演であること、またオーケストラのために作曲されたオリジナルのものが多い。
3. 「国立ウィーン音楽大学合唱団」とのジョイントコンサート成功におうところも多い。ちなみに合唱団は、度々にわたる日本演奏旅行の成功を通じて有名になった。特に、ORF（オーストラリア国営放送）で数多く収録され、放送されたオラトリオコンサートについては、大変重要な機会であったといえる。
4. JOWは、国際的に有名な指揮者やソリストとも演奏活動を展開。とりわけ、若い音楽家にとってデビューするよい機会となっている。エドワード クトロヴァッツがその一人である。彼は、ソリストとして有名になる当初、チェンバリストとして、打楽器演奏者としてJOWで活動している

オーケストラの構成

指揮	ヘルヴィック ライター		(国立ウィーン音楽大学教授)				
ピアノソロ	エドワード クトロヴァッツ		(国立ウィーン音楽大学教授)				
vn ヴァイオリン	10名	va ヴィオラ	4名	vc チェロ	3名	cb コントラバス	2名
hr ホルン	2名	ob オーボエ	2名	fg ファゴット	2名	fl フルート	1名
ライター夫人							
							計29名